

知床五湖における園芸スイレンの調査結果及び今後の予定について

1. 概要

知床五湖は、知床国立公園岩尾別地区に位置する湖沼で、周囲の深い森や知床連山を投影する姿は、知床を代表する景観となっている。しかし近年、侵略的外来種である園芸スイレンの繁茂が著しく、観光シーズンである夏期においては、湖面に知床連山が映る特徴的な景観が失われつつあり、生態系保全の観点からも懸念が大きい。

今年度は特に繁茂が著しい一湖において、除去計画策定のために湖面の調査及び試行的な除去作業を実施した。

2. 令和5年度の実施

(1) 湖面の調査

湖面の状況を把握するため、6月14日と7月21日にドローン撮影を行い(図1)、ドローンで撮影された写真及び現地調査の結果を基に、植生図を作成した(図2)。

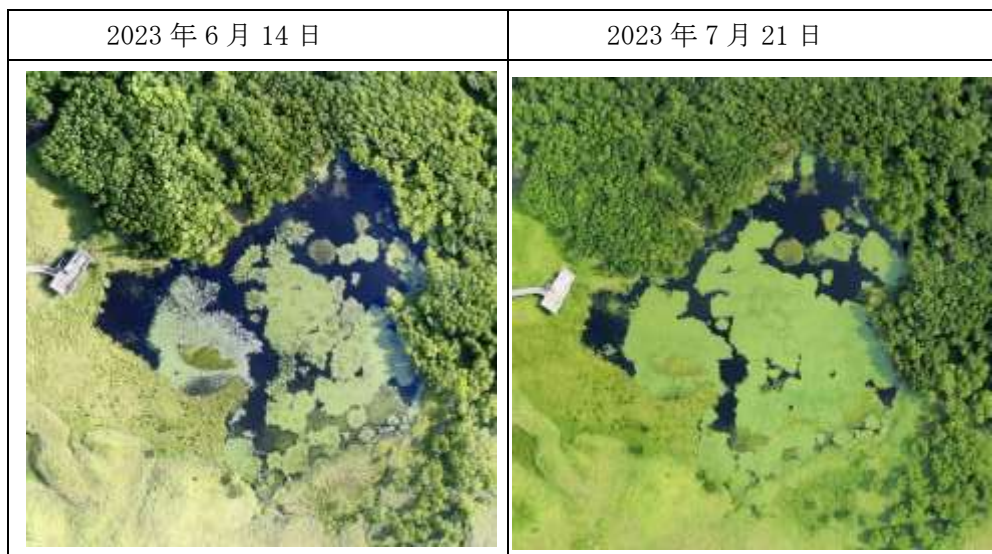


図1. 一湖湖面の様子

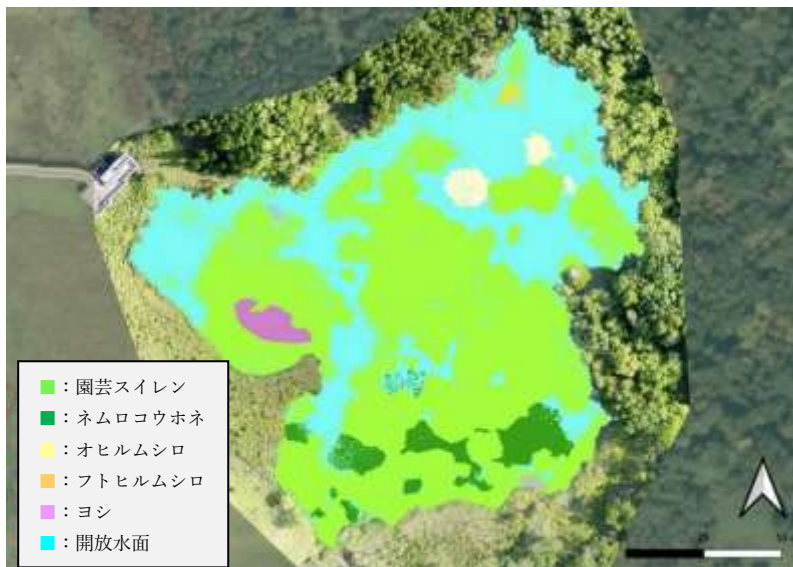


図2. 一湖の植生図（2023年6月14日）

(2) 除去作業の試行

独立した適切なサイズの園芸スイレンの純群落を対象として除去作業を実施した。時期は6月と7月に各1回ずつ行った。作業は2時間程度を目安とし、2艘のゴム製ボートを用いて2班が刈取り作業を実施し、残る1班が地上での支援や安全確認を行った。作業従事者は、環境省職員、知床財団職員、専門家で編成した。除去作業は、ゴムボートを用い鎌や大型のハサミなどを用いて水面に展開した浮葉を刈り取った。ゴムボート2艇を使用し、各日ソリ7杯分のスイレンを除去した。決められた範囲内は繰り返し除去を行った（図3、図4）。

その後のドローン撮影で、除去を実施した範囲は葉の密度が低下したことが確認できたが（図5）、一湖全体のスイレンは膨大な量であるため、より効率的な方法で刈取りを実施する必要がある。



図3. 除去作業風景



図4. 除去後のスイレン

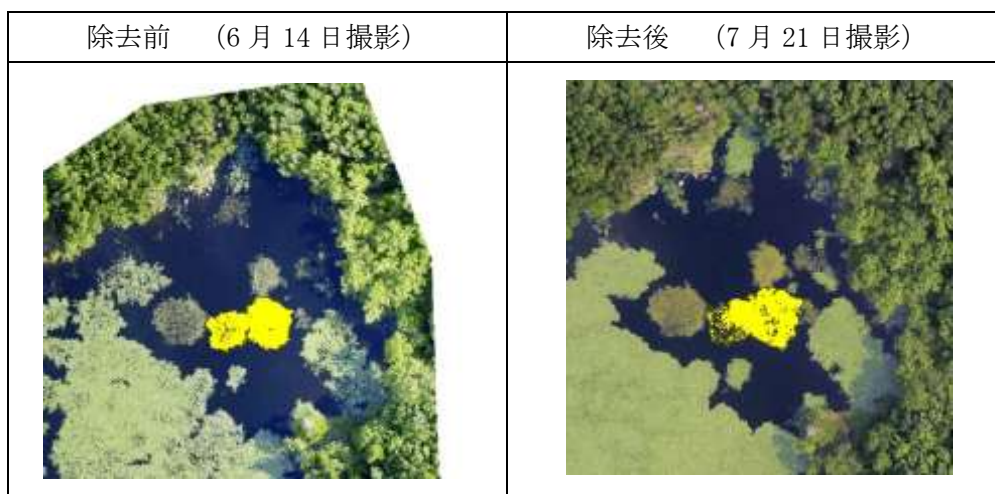


図5. スイレン除去範囲における除去前後の様子

3. 今後の予定

スイレンの被覆面積は夏にかけて徐々に増加し、その間も光合成で得た養分を地下部に貯蓄し続けているため、葉が小さい5月のうちに1回目の刈取りを行い、その後も間隔を空けず新しい葉を刈り取る必要がある。

令和6年度5月に除去作業を開始できるよう、令和5年度内に効率的かつ安全性の高い手法に関する知見を整理し、次年度以降の計画を作成する。計画には、定量的な除去目標や具体的な作業スケジュール、関係者参加型での除去作業計画等を盛り込む。